

読解力向上プログラム トスアップ 2018

感性豊かな子 理念

総合的長期的 戦略

具体的実践的 戦術

「人が担う仕事・機械への代替可能性が高い仕事」が論ぜられる中、文部科学省は20年度以降の教育改革で、読解力を中核に据えています。現代に求められる教育は、知識の詰め込みではなく、基礎的な読解力を基にして身に付けた思考力・判断力・表現力を駆使して課題を解決していく、主体的に学び続けようとする資質の育成です。

この自ら学ぶ力を身に付けた子どもたちは、自らの感性を磨き、創造力を豊かにし、多様な人々との協働によって社会を支え、これからの時代を強く生き抜くことができます。

この読解力向上プログラムは、基礎的な読解力を身に付けるために、「読む・書く・聞く・話す」のそれぞれの観点で、目指す具体的な姿を見つめ直すとともに、就学前の指導との系統性を確立し、基礎的・基本的な知識や技能を確実に定着させるための支援方法の開発や授業改善に取り組んでいくものです。



Ⅱ 2つの大改革がスタート

文部科学省資料より

	学習指導要領改訂	大学入試改革
2020年度	小学校全面实施	「大学入学共通テスト」へ
2021年度	中学校全面实施	思考力・判断力・表現力を養う教育
2022年度	高校で順次実施	社会で活用できる技能を重視
2024年度	新学習指導要領に対応した「大学入学共通テスト」を実施	

問題が導入される
国語と数学に記述式の

Ⅳ リーディングスキルテスト（RST）開発：国立情報学研究所

RSTは、小学生から社会人を対象にした読解力テストです。同研究所は、子どもたちが教科書程度の説明文の意味を理解できていないのではないかと考え、その検証のためRSTを開発し、2016年から試行を始めています。受検後直ちに画面上に分析結果が表記されるのも特徴です。つまずきの原因となる学習スキルの習得不足、基礎的な知識の習得不足、気づかない不適切な学習行動に関していち早く示唆が示され、教師もその特徴に応じて授業改善を行うことができます。

Ⅰ 2018 全国学力学習状況調査（犬山市小6・中3）

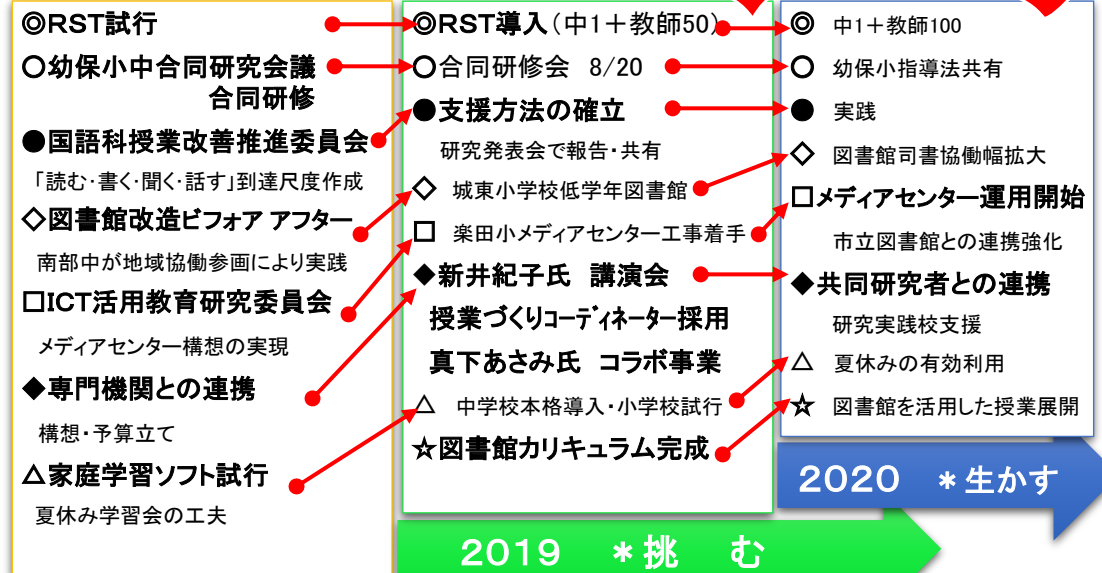
小	国語A	わずかに高い
	国語B	わずかに低い
中	国語A	やや低い
	国語B	わずかに低い

全国との比較であり、本来到達すべき目標とは違いますが、過去の結果も含めて国語の結果には課題を認識し、学校ごとの取組が行われています。

未来を切り拓く力 = 読解力 !!!
読解力はどう育てる !!!
年齢に応じた到達点を設定し、その達成度を確認しながら、切れ目のない一貫したアプローチを組み立てます。

教育施策抽出調査（2019 2月）
教育施策全数調査（2020 12月）

Ⅲ ロードマップ



数字は年度表示